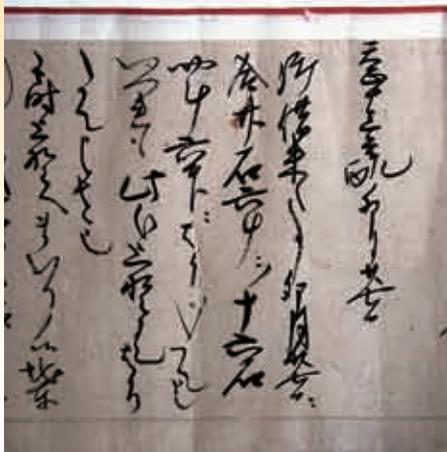


一升ってどれくらい？

市史編さんだより(2)

普段、私たちが何げなく使っている1kgや一升という単位は、全国共通であることが当たり前前で、一升といえは1.8ℓと決まっています。日本で物の長さや容量、重さなどを計る「ものさし(度量衡)」は、豊臣秀吉によって統一されたのですが、それ以前の室町時代では、地域によって枡の大きさが違い、場所が違えば一升が一升でなかったのです。その頃の様子を市内の古文書からうかがうことができます。

川東の春日神社には、天正十一年(1583)～十三年(1585)の古文書が伝わっています。伊賀市内で中世の古文書が残っていることは珍しく、大変貴重なものです。



▲川東の春日神社の古文書(部分)

その中に、

「合廿石六斗ヲ十六石四斗六升二はかりたて申候、いづれも此分上野にてはかりたて申候者也」(「春日社御借米請取覚」)

と記された天正十三年四月の史料があります。これは、借用した米を上野の下津屋へ返却する際に「はかりたて」、つまり計量したから、20石6斗が16石4斗6升に減ってしまったというのです。返却する米が足らなかったのではなく、計量し直したら、不足が生じたという意味です。これは、川東(当時は壬生野庄)と上野で枡の大きさが異なっていたことを表しています。計算してみると、上野の下津屋で使っていた枡は、壬生野庄の枡の2割5分増しの大きさの枡であったことがわかります。

これとは別に、藤堂高虎が伊賀へ入国する少し前(天正期から慶長期)の伊賀の様子を記した、奈良県の『大方家文書』には、「上野升」・「長田升」・「京升」といった記載が見られ、その中の史料には「京升にてはかりなるヘシ」、つまり、秀吉が統一した京升で計れと但し書きまで添えられていることから、当時、色々な枡が使われていたことがわかります。こうした枡はその後一部地域で使われ続けられたようです。

私たちの生活に身近な「枡」にまつわる歴史も、地域の古文書から知ることができます。

本庁総務課市史編さん係 ☎52・4380



発行日 平成18年9月1日
 発行 伊賀市
 〒518-8501
 三重県伊賀市上野丸之内116番地
 編集 企画振興部広聴広報課
 ☎0595-22-9636
 FAX 0595-22-9617
 伊賀市ホームページ：
<http://www.city.iga.lg.jp/>

ひとが輝く 地域が輝く ~住み良さが実感できる自立と共生のまち~ 伊賀市 IGA CITY



市内各地で夏まつり！！

7月22日の青山夏まつりを皮切りに8月5日にしまがはら夏まつり、8月15日に大山田ふるさと夏まつり、8月19日には市民夏のにぎわいフェスタと市内各地で夏まつりが開催されました。



青山夏まつりでは、青山太鼓保存会による太鼓の演奏やうちわ作り、しまがはら夏まつりでは、ボディペインティングやステージでの忍にん体操、大山田のふるさと夏まつりでは、キャラクターのねふたや創作花火など、それぞれ意匠を凝らした催しが行われました。

市民夏のにぎわいフェスタでは、銀座通りと本町通りの周辺で行われた楽市・楽座や盆踊り、上野西小学校での手筒花火大会など、市内外からたくさんの方が訪れ、大変なにぎわいを見せていました。(今月の表紙)



この広報紙は古紙配合率100%の再生紙を使用しています。